聴覚支援学校の
子どもたちの学校生活

６月２３日（月）に、２年福祉コースは、富山聴覚総合支援学校の檜木先生と庄司先生を講師に招き、聴覚障害の子どもの学校生活について学びました。聴覚支援学校では、補聴器や手話を活用してコミュニケーションをとっていることを知りました。また、チャイムの音や放送の音が聞こえにくい生徒が多いので、避難訓練の際は電光掲示板で情報を表示したり、授業の終わりには、チャイムの代わりにランプを使ったりするそうです。聴覚に障害があっても、不自由がないように様々な配慮がされていると感じました。

＜感想＞

・手話を実際にやってみて、五十音を覚えるだけでも大変なのに、さらに、単語ごとに違う動きがあると考えると、聴覚障害がある人は、ハンデを背負いながらも日々の生活を送っているのだと感心しました。

・聴覚障害のある生徒が、より安全に生活できるように、ランプや電光掲示板を使い生活しやすいように工夫されていることに感動しました。